

第 101 回 理学療法科学学会学術大会

2019 年 3 月 3 日（日）

国際医療福祉大学成田キャンパス

大会長 河野健一

国際医療福祉大学成田保健医療学部

御挨拶

第 101 回理学療法科学学会学術大会
大会長 河野 健一
国際医療福祉大学 成田保健医療学部
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科
講師

第 101 回理学療法科学学会学術大会を 2019 年 3 月 3 日に、国際医療福祉大学成田キャンパスにて開催する事となりました。大会長を拝命する機会をいただき大変光栄に存じます。また、年度末のお忙しい時期にも関わらず、本学会にご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今回の学術集会のテーマは、最先端の理学療法～慢性疾患の重症化予防に向けた身体活動の管理～といたしました。超高齢化社会が進む本邦において、慢性疾患の罹患者は膨大な数に上ります。とくに、高血圧、糖尿病などこれまでも指摘されている慢性疾患に加え、慢性腎臓病は近年のトピックとなっております。そこで、今回、教育講演として、慢性腎臓病の疾患管理と腎臓リハビリテーションと題し、腎臓内科また腎臓リハビリテーションの大家である安藤康宏先生にご講演をお願い致しました。さらに、ワークショップでは、慢性腎臓病を保存期から透析期にかけ、そして糖尿病透析患者に極めて多い重症下肢虚血を併存した下肢慢性創傷患者の理学療法について最新の知見を各領域のエキスパートに紹介いただきます。

慢性疾患患者（特に慢性腎臓病患者）に対する最新の理学療法エビデンスを観察すると、理学療法の第一選択は日頃の身体活動量を向上させることだと考えられています。そのために必要な身体機能を向上させることも理学療法士の役割になりますが、それを「いつ」、「どこで」、「どのように」進めることが最良なのかを適切に判断し実践する力こそ理学療法士が高めるべき職能といえます。急性期、回復期、地域、それぞれにおいて関わり方は異なりますが、「慢性疾患を重症化させないための疾患管理としての理学療法」は対象者の健康寿命の延伸、社会保障費の抑制といった社会からの要請に立ち向かう強力な手段になりうると信じています。

学術大会後、参加者の皆様の日々の診療にとって有益となる学術情報を多く提供できる機会となるようプログラムを企画しております。何卒よろしく御礼申し上げます。

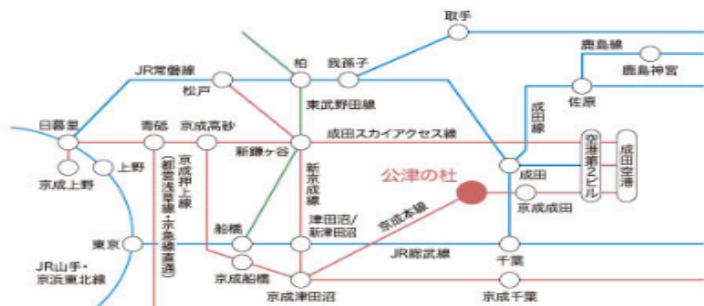
開催概要

- 名称 第 101 回理学療法科学学会
- テーマ 最先端の理学療法 3 慢性疾患の重症化予防に向けた身体活動の管理
- 日時 2019 年 3 月 3 日
- 会場 国際医療福祉大学成田キャンパス WA（医学部・大学院）棟
2F 大講義室 3 WA204 教室
- 大会場 河野健一（国際医療福祉大学成田保健医療学部）
- 事務局 櫻井陽子（国際医療福祉大学成田保健医療学部理学療法学科）
千葉県成田市公津の杜 4-3

会場案内

成田キャンパスへのアクセス

〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4丁目3
京成本線「公津の杜」駅前



主要駅からの所要時間



※所要時間は区間における目安の時間(一部乗り換え時間も含む)であり、時間帯により異なります。

医学部棟フロア概要

11F	国際会議室/レセプションルーム/レストラン
10F	医学教育統括センター/研究室
9F	共同研究室
8F	基礎医学研究エリア
7F	ゲノム医学研究所/高度生体医療リサーチセンター 遠隔診療センター/微生物教育研究センター
6F	リサーチパーク
5F	国際感染症研究センター/大学院
4F	医学教育シミュレーションセンター (SCOPE)
3F	図書室/自習室/SGD室/TBL室
2F	大講義室/TBL室
1F	メインエントランスホール/法医室/健康管理センター/カフェ



WA棟エントランスホール

研究室/共同研究室	6F
講義室/マルチメディア実習室	5F
医学教育シミュレーションセンター (SCOPE)	4F
PC教室/語学教室/国際交流センター	3F
講義室/ロッカー室	2F
自習室/総合案内	1F

会場
PC 受付

総合受付

メインエントランスの自動扉はオートロックのため、入棟の際は担当者が中より開けさせていただきます。必ずネームカードをご提示ください。また、当日 E 棟 (看護学部保健医療学部棟) で作業療法の学会を開催しています。お間違えないようご注意ください

日程表 3月3日(日)

	会場 2F大講義室3 WA204)	TBLルーム
8時50分		PC受付
9時30分	開会式	
9時40分	<u>一般演題口演1</u> O-1-1～O-1-6 座長 糸数 昌史	
10時35分		
10時40分	<u>教育講演</u> 安藤康宏 国際医療福祉大学病院 病院教授 腎臓内科、予防医学センター 「慢性腎臓病の疾患管理と腎臓リハビリテーション」 司会 西田裕介	休憩スペース
11時50分		PC受付
12時45分	<u>一般演題口演2</u> O-2-1～O-2-6 座長 大武 聖	
13時40分		
13時50分	<u>ワークショップ</u> 「慢性疾患の重症化予防にむけた身体活動の管理」 司会発言 : 河野健一 WS1. 保存期 CKD : 平木幸治 WS2. 透析期 CKD : 忽那俊樹 WS3. 下肢慢性創傷 : 松本純一 司会 河野健一	休憩スペース
15時20分		
15時25分	<u>一般演題口演3</u> O-3-1～O-3-6 座長 竹内真太	
16時20分	閉会式	
16時30分		

プログラム

教育講演 3月3日(日) 10:40~11:50

司会 西田裕介 国際医療福祉大学 成田保健医療学部

慢性腎臓病の疾患管理と腎臓リハビリテーション

国際医療福祉大学病院 予防医学センター・腎臓内科

安藤康宏

ワークショップ 3月3日(日) 13:50~15:20

司会 河野健一 国際医療福祉大学 成田保健医療学部

テーマ

「慢性疾患の重症化予防にむけた身体活動の管理」

WS1 保存期慢性腎臓病患者の重症化予防に向けた身体活動の管理

聖マリアンナ医科大学病院 リハビリテーション部

平木幸治

WS2 透析患者の重症化予防に向けた身体活動の管理

東京工科大学 医療保健学部 理学療法学科

忽那俊樹

WS3 下肢慢性創傷の重症化予防に向けた身体活動の管理

1)IMS(イムス)グループ春日部中央総合病院リハビリテーション科 2)日本フットケアサービス株式会社 3)IMS(イムス)グループ春日部中央総合病院 看護部 4)IMS(イムス)グループ春日部中央総合病院 循環器科 5)東京西徳洲会病院 形成外科

松本純一¹⁾ 榊聡子¹⁾ 樋口雄哉¹⁾ 菱沼遼¹⁾ 畑裕喜¹⁾ 松本拓也¹⁾ 名和大輔²⁾
山崎知美³⁾ 畠信哉⁴⁾ 中林圭介⁴⁾ 寺部雄太⁵⁾ 金子喜仁⁴⁾ 松井朗裕⁴⁾ 安藤弘⁴⁾

O-1-1 施設入所者におけるサルコペニア発生率と ADL の関係

1)日本保健医療大学 保健医療学部理学療法学科 2)国立長寿医療研究センター 3)国際医療福祉大学 小田原保健医療学部理学療法学科 4)国際医療福祉大学成田保健医療学部理学療法学科
加茂智彦¹⁾ 石井秀明²⁾ 鈴木啓介³⁾ 西田裕介⁴⁾

O-1-2 地域在住中高年者を対象としたロコモーショントレーニング介入効果
～Propensity score を用いたマッチング後による介入効果の検討～

1)日本保健医療大学 保健医療学部 2)埼玉医科大学 保健医療学部 3)医療法人社団愛友会 伊奈病院 整形外科
旭 竜馬¹⁾ 藤田博暁²⁾ 池田智子¹⁾ 湯口 聡¹⁾ 加茂智彦¹⁾ 浅見正人¹⁾ 荻原啓文¹⁾ 石橋英明³⁾

O-1-3 虚弱高齢者に対する Timed Up and Go Test の快適歩行と最速歩行の違いと臨床的意義

1)武蔵台病院 リハビリテーション課 2)東京医療学院大学 リハビリテーション学科理学療法専攻
古井田真吾¹⁾ 杉本 諭²⁾ 大隈 統¹⁾

O-1-4 非サルコペニア PAD 患者と同年代地域高齢者における身体機能の比較

1)国際医療福祉大学病院 リハビリテーション室 2)国際医療福祉大学 理学療法学科
佐々木拓良¹⁾ 入江容¹⁾ 上田清史¹⁾ 石坂正大²⁾ 金子純一郎²⁾

O-1-5 運動習慣の定着化に向けた介入効果の検証

1)聖隷佐倉市民病院 リハビリテーション室 2)聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部理学療法学科 3)聖隷佐倉市民病院 腎臓内科
山口智也¹⁾ 矢部広樹²⁾ 三嶽侑哉¹⁾ 島袋 匠¹⁾ 知識愛花¹⁾ 白井智裕¹⁾ 藤井隆之³⁾

O-1-6 心肺停止後入院透析患者に対する透析関連低血圧後の運動負荷に関する検討

1)聖隷佐倉市民病院 リハビリテーション室 2)聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部理学療法学科
三嶽侑哉¹⁾ 矢部広樹²⁾ 加藤木丈英¹⁾ 山口智也²⁾ 白井智裕¹⁾

一般演題口演 2 3月3日(日) 12:45~13:40

内科・基礎

座長 大武 聖 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

O-2-1 VCO₂-VO₂ difference の臨床的活用性の検討 - pilot study -

1) 健康科学大学 健康科学部 理学療法学科

藤田大輔¹⁾

O-2-2 当院における消化器がん術後患者に対する神経筋電気刺激の試み-自宅復帰後までの追跡調査-

1) 国際医療福祉大学市川病院 リハビリテーション室 2) 国際医療福祉大学市川病院 消化器外科 3) 国際医療福祉大学市川病院 リハビリテーション科

府川泰久¹⁾ 吉田誠也¹⁾ 小河祐樹¹⁾ 善田督史¹⁾ 喜古梨沙¹⁾ 板野理²⁾ 角田亘³⁾

O-2-3 成人した小児がん経験者参加型の保健指導が運動機能に与える効用と意識の変化 -日本初の縦断的介入研究の実践報告-

1) 国際医療福祉大学大学院 2) リハビリ推進センター株式会社 3) 昭和女子大学 4) 大阪国際大学 5) 学習院大学

堀江久樹¹⁾ 石坂正大¹⁾ 木村英生²⁾ 熊澤幸子³⁾ 横山 誠⁴⁾ 佐藤陽治⁵⁾ 世良喜子¹⁾

O-2-4 二重課題の難易度が歩行に与える影響について

1) 医療法人社団上総会 山之内病院 診療技術部リハビリテーション課 2) 国際医療福祉大学 成田保健医療学部理学療法学科

佐藤健太¹⁾ 富樫美和子¹⁾ 竹内真太²⁾ 河野健一²⁾ 西田裕介³⁾

O-2-5 身体活動量の低い回復期リハビリテーション病棟入院患者における自律神経の応答性

1) 医療法人平成博愛会 印西総合病院 2) 国際医療福祉大学 成田保健医療学部理学療法学科

尾張 剛¹⁾ 河野健一²⁾ 西田裕介²⁾

O-2-6 温熱療法前後の唾液アミラーゼと脊柱柔軟性の関係 -Pilot study による検討-

1) 医療法人佐藤病院 リハビリテーション科 2) 国際医療福祉大学大学院 基礎理学療法分野

後藤 郁弥^{1),2)} 丸山仁司²⁾

一般演題口演 3 3月3日(日) 15:25~16:20

生活環境支援・基礎・運動器・スポーツ

座長 竹内真太 国際医療福祉大学 成田保健医療学部

O-3-1 杖のグリップの形状と把持の違いによる歩行能力の変化

1)学校法人平成医療学園 宝塚医療大学理学療法学科

長川由理英¹⁾ 横井元貴¹⁾ 豊岡奈津美¹⁾ 篠原 博¹⁾ 小幡太志¹⁾

O-3-2 T2 緩和時間を指標とした把握動作における前腕筋活動分析 - 鍋の上下運動 -

1) 獨協医科大学 生理学教室 (生体制御) 2) マロニエ医療福祉専門学校 作業療法学科

3) 人間総合科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科 4) 葵メディカルアカデミー 理学療法学科 5) 獨協医科大学 リハビリテーション科

緒方 輝^{1),2)} 秋山純和^{1,3)} 高森正祥^{1,4)} 石坂勇人⁵⁾ 大塚 博⁴⁾ 瀬尾芳輝¹⁾

O-3-3 理学療法学部生の東京オリンピック・パラリンピックボランティア参加に関する調査 -東京圏キャンパスと地方キャンパスとの比較-

1)国際医療福祉大学 保健医療学部理学療法学科 2)国際医療福祉大学大学院

小野田公¹⁾ 佐藤珠江¹⁾ 久保 晃¹⁾ 丸山仁司²⁾

O-3-4 足関節テーピングがバランス能力に与える影響

1)学校法人平成医療学園宝塚医療大学 保健医療学部理学療法学科

後藤圭介¹⁾ 西林孝一¹⁾ 小林 涼¹⁾ 篠原 博¹⁾

O-3-5 足関節への伸縮性・非伸縮性テーピングが敏捷性に与える影響

1)学校法人平成医療学園 宝塚医療大学 保健医療学部理学療法学科

小林 涼¹⁾ 後藤圭介¹⁾ 西林孝一郎¹⁾ 篠原 博¹⁾

O-3-6 足関節への伸縮性・非伸縮性テーピングがジャンプ動作に与える影響

1)学校法人平成医療学園 宝塚医療大学 保健医療学部理学療法学科

西林孝一郎¹⁾ 小林 涼¹⁾ 後藤圭介¹⁾ 篠原 博¹⁾